

浅間火山における二酸化イオウ放出量 (1982年6月18～20日)*

九州大学理学部島原火山観測所
東京大学地震研究所浅間火山観測所

浅間火山では、1982年4月26日に小噴火をみたが、その約2箇月後の6月18日から20日にかけて、二酸化イオウ SO_2 放出量の測定を行なった。

今回の測定期間は天候に恵まれず、連続3日間にとどまり、かつ、測定回数も比較的少なかったため、測定精度はやや落ちるが、結果は6月18日：379 t/日（測定回3回）；19日：811 t/日（同8回）；20日：513 t/日（同6回）で、当該期間3日間平均値は570 t/日であった。この値は、今回の噴火約5箇月前（1981年11月9～14日）の測定値530 t/日と同程度である。

一般に、マグマの上昇・本質物質の放出をともなった噴火の後では、マグマからの脱ガスが促進されるとともに、火道の通気性が著しく向上するため、火口からの火山ガス放出量は激増するが、今回の噴火では、1973年の噴火時のような顕著な変化はみられていない。しかし、静穏期での当火山での二酸化イオウ放出量は約100 t/日前後であることから、依然として高水準を持続していると考えられる。

その後、10月2日にも、微噴火がみられたが、今後共、二酸化イオウ放出量の推移を見守る必要がある。

なお、測定は相関スペクトロメータ（COSPEC）を用い、¹⁾ Traverse 法のみで実施した。

参 考 文 献

- 1) 九州大学理学部島原火山観測所・東京大学地震研究所浅間火山観測所（1982）：浅間火山における二酸化イオウ放出量の測定、噴火予知連会報，25，11－13。